

中学校L I F E（総合的な学習の時間）の実践

－ 3年“卒業論文をつくろう”－

大江 和彦

I. はじめに

昨年度の当校の研究紀要に、「卒業論文をつくろう」の年間計画と指導方針・指導内容について掲載した。

今回の実践報告では、生徒の研究過程における大きな反省課題を明らかにし、自己・他己の評価を通じて最も優れた評価を得た研究を紹介する。

次にあげるのは、実践の大方針である。

近い将来（高校生）の自己の理解・認識の成長を客観的に確認し、よりよい社会の成員としての自分に何が必要かを考えるため、現在の自己を分析・理解・表現する。

「卒業論文をつくろう」という目標に対し、自己の課題の発見、情報化社会における情報収集・情報分析、発表を前提とした批判的内容精選・内容構成・表現方法の工夫を通じて、自らの意見を論理的かつ効果的に発信できる態度と能力を育成する。

II. 2000年度LIFE前期の研究テーマと概要

- 「美人の歴史」（女子2名）…後記
- 「今年はカープが勝つ」（男子3名）
…プロ野球シーズン開幕にあたり、カープが快進撃するための条件を検証
- 「女性の身分」（男子3名）
…時代を追って、女性の身分の変化と、これからの男女の社会的役割を考察
- 「ポケモンが世界中で人気を集めている理由」（男子2名）
…アメリカで社会問題にまでなっているポケットモンスターの人気の秘密を探る
- 「今年はカープが勝つ」（男子3名）
…プロ野球シーズン開幕にあたり、カープが快進撃するための条件を検証
- 「苗字について」（女子2名）
…全国や都道府県別、地元福山市などに多い苗字の由来を考察
- 「戦国時代の民衆の生活」（男子2名）
…なぜ民衆が権力者に対し、意志を貫徹できるようになったのかを、自主的な村落共同体を中心として検証

- 「紫外線について」（女子2名）
…夏に強いといわれる紫外線が人体に与える影響と、それを防ぐ効果的な方法を考察
 - 「ゲームについて」（男子3名）
…いよいよ発売となったプレイステーション2の性能やその優秀性を考察
 - 「なぜダイエットに惹かれるか」（女子3名）
…ダイエットの効用、健康的なダイエットのための方法などを研究
 - 「少年犯罪から見る少年法改正論」（女子1名）
…少年法の現在の問題点と、現代の少年犯罪の特徴の考察を通じて、少年法のあるべき姿を考える。
 - 「コンタクトレンズが及ぼす影響」（女子3名）
…学生を中心に広がるコンタクトレンズの使用について、適切な使用時期と使用方法を研究
 - 「お笑いについて」（女子2名）
…日本古来の猿楽から、海外の漫画まで、広い視野に立ったお笑いの歴史の研究
 - 「髪の毛について」（女子2名）
…紫外線やシャンプーなどで痛みやすい髪の毛の、理想的な保護法についての研究
 - 「バーコードについて」（女子2名）
…バーコードの仕組みや歴史、バーコードの将来性などを研究
 - 「THE DIARECT」（女子2名）
…全国にある方言を、1つのことばや地域別で調査・研究
- 以上がテーマの一覧である。

III. 研究の経緯と課題

ほとんどのグループは、4月当初に設定したテーマを、継続的に研究したが、いくつかのグループは、研究テーマそのものを再考する必要に応じ、全く新しいテーマを研究し直した。その理由は以下の2つである。

- ①資料があまりにも少なかったため、より資料が豊富な内容のテーマに移行した。
- ②資料を十分に集めることができず、より簡潔な内容のテーマに移行した。

いずれの場合も、生徒の意欲の問題の他、資料収集の方法をきちんと提示できなかった教師の指導力不足と、研究の見通しを確実に立てさせることができなかった

師の指導力不足ともいえる。このような状況が起こらないようにするため、徹底した事前指導を行う必要がある。

IV. 実践事例

美人の歴史

1 はじめに

私たちが美人の歴史を調べようと思ったのは、ただの歴史ではなく、もっと何か面白い歴史を調べたいと思ったからです。美人という言葉の思い浮かべると、なぜかオタクの顔が出てきます。そこで、なぜ平安時代には下ぶくれの顔が「美人」と言われたのか、では、他の時代の美人像はどうだったのだろうかと考え、調べることにしました。

2 奈良時代



奈良時代は、唐の文化の影響を受けた時代でした。いろいろな文化を唐から学んでいましたが、この時代の美人像というのも、あまりはっきりしてはいませんが、日本独特というのではなく、唐から海を渡ってきたのです。当時の唐の女性は、服飾・結髪・化粧もすべて華美でした。衣服は綾、絹、紗、羅などの高級なものが使われ、背衣裳（カラギヌモ）というものが上流の女子の間に広く行われていました。背子とは、襟のない、胴だけを覆うものです。その他、女官朝服がありました。これは、あとで挙げる額田王の衣服によく似ています。どちらも多彩で、ふんわりとした衣服でした。

髪型は、高髪（コウケイ）という高々と優雅に結び上げた髪と、垂髪（スイカン）という、大きく鬘（ビン）を張らせて、いったん肩のあたりまで垂らしてから折り曲げ、その毛先を頭上に上げて前髪と一束にして髷を作るものでした。化粧法は、なんと鉛から作られた白粉（オシロイ）を塗り、眉を描き、頬紅をつけて口紅をさし、額と唇の左右には花

でんをつける…というものでした。鉛を肌に塗っていたというのは、今考えるとぞっとしますね。かなり肌が傷んでいたのではないかと思います。でも、念入りの化粧法は昔も今も同じようです。万葉の人々も、お化粧は大変だったようですね。

奈良時代の美人として（歴史書には、はっきりと美人とはのっていませんが）薬師寺吉祥天像、額田王が挙げられます。薬師寺吉祥天像は、髪のもとどりに飾りをさし、左手に宝珠を持ち、腕輪や瓔珞（ヨウラク）をつけ、唐風の礼装の裾をなびかせています。顔は、蛾眉の太い眉、唇と豊かな頬には鮮やかな紅をさしています。



3 平安時代～下ぶくれ～



当時の理想の美人像は、以下の通りです。第1に、身丈よりも長い、黒く艶やかな美しい黒髪。髪は量が多い方がよく、色は紫味をおびた黒髪や、川蟬の羽のような青味を持った透明感のある黒や、金泥の漆のような艶やかな黒がよい。顔の形は頬のふっくらした、いわゆる下ぶくれ形で、中高、鼻筋が通っていること。肌は青く透き通るような白い肌が好まれていました。「源氏物語絵巻」などからは、主に引目鉤鼻であることがわかります。平安時代の美人の定義は、黒髪中心です。それに比べて顔の方は引目鉤鼻というふうにより形式化され、顔についての資料はほとんどありません。髪は美人の象徴的なもので、女性たちは皆大切にしていました。髪長美人として有名な藤原芳子は、牛車に乗っても垂れる髪のは、母屋の柱にまで達したと言われていました。当時の美は、髪を中心としていました。だから、美しい衣裳というのも、どれだけ黒髪を引き立てるかということだったのです。そしてもっともふさわしいもの、十二単が完成しました。顔の形、下ぶくれについても同様です。長い黒髪のボリュームを受け止め、引き立てるためでした。また白い肌も美しいとされました。当時の女性は厚化粧と思われがちですが、美しいとされたのは上記のような透青白で決して壁のような顔ではありませんでした。白い肌、お歯黒、垂髪らは、あまり動かない貴族階級特有のおしゃれでした。その後も白い肌の優位性は根強く残りました。当時眉は抜かれ額の上の方に描かれるようになりました。この意味としても垂髪とのバランスが挙げられますが、別の説として、当時貴族の間では、汗をかくのは下層民のする事とされていたので、額が汗で光るのを防ぐためというものがああります。眉抜きは、江戸時代中期にかみそりが現れるまで続いたといわれます。平安時代は貴族を中心に（女性は）自分の容貌を見せないことが奥ゆかしく、たしなみ深く教養があるという美意識があったため、表情を顔に出すのははしたない行為だとされていました。当時の女性像が細目で、喜怒哀楽の中間的な表情をしていたのはそういう理由だったようです。その為顔は様式化されたのではないのでしょうか。それだからこそ、黒髪の美しさがより誇張され、美意識の中心になったのではないかと思います。当時のこの武士道にもつながる考え方が、日本特有の黒髪的美意識を生み出したのです。

4 戦国時代～あぐら～



戦国時代の美人としては、やはりお市の方が有名です。お市の方は織田信長の妹で、当時美人として聞こえました。この時代の女性たちの装いは、ずいぶんシンプルなものになってきたように思えます。大陸から影響を受けたわけでもなく、わりあい美人像は国産になってきました。お市の方もそうですが、このころの身分の高い武家の婦人の姿は、髪は結わずに真ん中で分けて垂髪にしていました。これは平安時代ごろからずっと残っているようです。化粧では、つくり眉をしていました。そのため、眉がたいへん上の方についているのです。お化粧といっても、このほかには、あまり独特な特徴はありません。平安時代の続きといった感じで少しシンプルになってきたように思えます。ところが服装では、けっこう独特なものがありました。お市の方でみると、下着を3枚重ね、その上に「肩すそ」という肩とすそだけに模様のある小袖を着ています。この「肩すそ」で襟とすそにのぞいている模様をよく見ると、違うのがわかります。雲形と花模様、つまり「肩すそ」でしかも片身変わりの模様のついた小袖を着ているのです。その上に白綾の小袖を重ね、一番上の美しい模様の着物は、肌脱ぎにしています。これを腰巻姿といって当時の女性の正装です。あぐらをかいているのも習慣です。衣服の方はけっこうシンプルになってきているのに、片身変わりなど、模様をたくさん取り入れているのが特徴ですが、なんとあぐらをかくことが習慣というのには驚きました。現代では、あぐらをかく女性はあまりいないですから。

5 江戸時代～緑の口紅～



江戸時代の美人像というのは、はっきりとは定義づけられていなかったようです。根本的な美人観は平安時代とあまり変わっておらず、やはり白い肌で中高な顔、鼻筋が通っていることが好まれました。緑の口紅がはりました。

室町時代から江戸時代前期にかけて女性の髪型は大きく変わりました。結髪が広がり始めたのです。広まった理由として武家の女性たちが活動的になったことがあげられますが、江戸時代に急激に発展していったのは、天下が安定したため、庶民に余裕ができ、働く女性たちもおしゃれができるようになったためなのではないかと思えます。そうして垂髪に代わって後頭部にやや垂らした髷（タボ）から全体を結び上げた髷へと発展していきました。垂髪は消えましたが、髪中心の美的感覚は深く根付いていきました。結び上げた前髪に合うよう、眉は細くなりましたし、結び上げて背中が寂しくなったので帯幅は広く、結びも華やかになりました。また、江戸時代から口紅をさすようになりました。古来から口を強調することは、発言力を表し、女性としてはしたない行為とされてきましたが、ここで化粧美の主流となりました。江戸文化は個性を認める柔軟性も持っていたようです。後期になって「通」に代わって「粋」という美意識が庶民に浸透してゆきました。これみよがしの風俗ではなく、表は質素に裏に粋という裏の美はどんどん発展していきました。「粋」とは日常のあらゆることに対し、美と個性を両持した一種の垢抜けた社

会的センスを美学としたものでした。この考え方により、上品な女性よりも初々しい自然な女性が理想とされました。日常が絵になる清楚な少女が美人の対象となったようです。しかし、「粹」という考え方で、人々の美人像はシンボルとしての共通なものではなく、各個人のあこがれとしてより多様化することになったようです。

江戸時代という長い安定の時代の中で、外国からの影響も受けず人々は日本独自の美学を発展させたようです。この時代、美学は庶民の間に浸透し、美人が多様化していきました。それには、国の制度が安定し町人や商人が増え、生活に余裕ができたために、庶民の知性もある程度のもになったということも関係していたのではないのでしょうか。

6 明治時代～和洋折衷～



文明開化の影響により、女性の服装にも次第に洋風化の波が押し寄せ、和洋折衷式になりました。少し話はそれますが、当時の洋服の着用で、とても面白い話がありました。1872年に洋服が採用された頃から、一般民の間にも洋服を着用する人が少しずつ増えてきました。この時代の洋服は実にとんちんかんなもので、上着は英国風でズボンアメリカ風というような風体でした。洋服に下駄を履くのは、今でも見られるから不思議ではないですが、洋服の上に羽織を着、切下髪や茶筌まげで洋服を着るというふうでした。こうしてだんだんと洋服が広まり、着物が和服と呼ばれるようになっていきました。上流婦人は髪も洋風にまとめ、ひだやフリルのついた華美な洋服を着ました。大きな帽子も、かぶるというよりは頭につけていました。明治時代に洋服が入ってきたことによって、女性の装いも和風と洋風に分かれたようです。和風・洋風どちらにもいえることですが、化粧がだんだん現代風になってきました。眉は細く整えられ、口紅をさしています。顔もほっそりとした顔に、少し細い目、鼻筋は通っている。目は昔から細いのが好まれてきたのでしょうか。そして私が驚いたことは、日本髪の結い方がたくさんあったことです。洋服が広まったといっても完璧にみんな洋服になったわけではなく、一般の人々はまだまだ着物や和洋折衷でした。日本髪の型がたくさん出てきたことによって、一般の女性もおしゃれを楽しめたと思います。明治時代以前は、美しい装いをしている人などは貴族にしか見られませんでした。しかしこれがきっかけで一部

の女性だけではなくたくさんの女性がきれいになれたと思いました。そして、この頃から、そろそろ「美人とは」という定義付けが難しくなってきました。これまでの日本の文化に欧米の文化も加わり、美人像も欧米化してきたように思えます。



7 昭和以後～アメリカン～

現代には象徴的美人像はありません。美人の要素としては、小顔で手足が細長いこと、目が二重で大きく、まつげが長いこと。顔立ちが左右対称であること。清潔であること。品格や愛嬌があることなどがあります。

現代の美学は「粹」が発展したもので、外見の美も内の美も裏の美も重要になっています。けれど、美しさの基準は見た目の方は特に変わってきました。

戦後、一気に欧米化が広まりました。そして、それに続いて、日本人の美意識も欧米化してきました。足が長い、顔が小さい、目が大きいなどというのは、欧米人の特徴です。日本美人はその逆だったのです。では、なぜ美意識が欧米化したのでしょうか。その理由として、洋服になったことがあげられます。

大正時代後期頃から女性はスカートや（もっと後になります）ズボンをはくようになり、足が出る服装になりました。それで、美意識が足に向けられてゆきました。以前は着物で足が見えないため、誰も気にしてなかったのです。このように欧米文化が広まるにつれ、日本人の美的感覚も欧米と同じ方向に発展していきました。そして、文化の変化に伴って、食生活が変わり、実際に日本人の体型も欧米化し、以前より足が長く、顎の小さい顔になってゆきました。

この体型の変化は、男女平等が進み行動的になった女性たちにとってとても都合のよいものでした。腰も小さくなり、動きやすくなったのです。このように進化した女性が美人と呼ばれるようになりました。ところが、男女平等の進んでいない国ではその逆で、腰の大きいふっくらとした体型が好まれるという特徴があるようです。これは、昔の日本のように女性の地位が低く、養うという考え方があるためです。

日本では男女はお互いにパートナーであるという考え方になっているということです。欧米化によって美はとても変化しました。

8 まとめ

奈良時代・体つきがふっくらとしている

- ・きれいな化粧・派手な服・高髪（高く結い上げた髪）、垂髪（肩まで垂らして折り曲げた髪）を一体に平安美人
- ・身長より長い艶やかな黒髪（垂髪）・下ぶくれのオタフク顔
- ・青く透き通るような白い肌・引目鉤鼻・十二単・薄化粧、お歯黒

戦国時代・やや細おもての顔・あまりはっきりしない目鼻立ち・垂髪

- ・腰巻姿・あぐら

江戸時代・白い肌・中高で鼻筋の通った顔（細面）・鬢や髷で結い上げた髪

- ・粋な人・柳腰・初々しい少女のような人

明治時代・良家の淑女・ハイカラ・洋風な人・色白でしとやかな人

現代・小顔・目が大きくまつげが長い・手足が細長い・すらりとしている

- ・笑顔（表情が豊か）・気が合う

おわりに

私たちは面白い歴史を…ということと美人の歴史を調べたのですが、調べてみて、その奥の深さに驚かされました。いつの時代でも女性の美の欲求と情熱はすごかったのだなぁと感心させられてしまいました。資料もおもしろいものが多く、本当に楽しいテーマでした。

以上が、「美人の歴史」の全文である。以下に、評価できる点と課題を簡潔に述べる。

評価できる点

- ①構成において、時代の古いものから新しいものへ、時代の流れとともに「美人観」がどう変化したのかをわかりやすく述べていること
- ②構成において、それぞれの時代のテーマの副題が、興味をそそることばであること
- ③内容において、各章の文のはじめの2～3行に、各章の内容を要約してあるため、概観しやすいこと
- ④発表において、自分たちの調べた内容に自信を持ち、堂々と大きな声で発表できたこと

課題

- ①研究内容についての参照・引用文献が明示されていないこと
 - ②「美人観」の時代的変遷を、形式化してポイントを絞り、はっきりと比較できるようにすべきであったこと
 - ③女性の地位に関する記述は、一般的な理解として適切であるかどうかを検討する必要があること
- しかし、総じて、生徒の評価の高かった論文であり、内容のわかりやすさと構成の方法は、他の論文に比較して卓越しており、完成度は高いと考えられる。

V. おわりに

今回は、紙面の都合で、2000年度前期の3年LIFEにおける優秀な論文を紹介するにとどまったが、教員の指導方針の適切な提示と、自己評価、他己評価ともに、評価の観点などの方法を再考する必要があると考えられる。